

取掛西貝塚のココがすごい! ⑤

貝層の下から見つかった謎の“動物骨集中”!!

どう ぶつ こつ しゅうちゅう

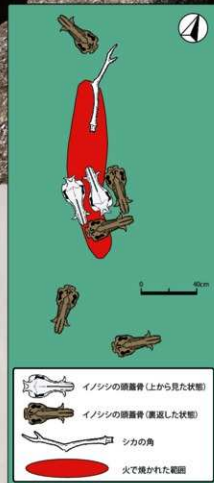
竪穴住居に捨てられた最大75cmに及ぶ貝層を掘り下げしてみると、その下から動物の骨がまとまって見つかった。見つかった動物の骨はイノシシやシカの頭部の骨を中心としたものだった。

これらの動物の骨は竪穴住居が使われなくなり、埋まりかけたくぼみ状になっているときに集められている。集められた動物骨の中心部分からはイノシシやシカの頭部がまとまって見つかっており、その範囲の骨は強い火の熱を受けた跡がみられる。少なくともイノシシやシカの頭部をこの場所に並べ、火を焚いていたことは明らかとなっている。

その様子から、たとえば狩りで仕留めた動物の魂を送ったり、狩りを続けられるよう動物の再生を願ったりするなど、何らかの儀礼をおこなった跡という意見もある。そうした儀礼の跡だとすれば、日本最古のものとなる。



動物骨集中（南側からみた様子）



イノシシ・シカの配置状況

動物骨の集中か所にはイノシシの頭蓋骨がまとまって見つかった。細かい骨をのぞくと、左の図のような並び方で見つかった。

イノシシの頭蓋骨は7体あり、火で焼かれているものもある。

イノシシは、大人（成獣）が4体のほか、子ども（幼獣）1体、その中間の若者（亜成獣・若獣）2体で、年齢はさまざま。

シカの角は、火が当たるところに立てられていたようだ。

このほかに、焼けたシカの頭蓋骨などもいくつか見つかった。



出土した動物の骨など

編集・発行：船橋市教育委員会生涯学習部文化課
令和7(2025)年7月4日発行(第3版)
千葉県船橋市湊町2-10-25
電話：047-436-2887



取掛西貝塚について
特設ホームページで情報発信中です！

特設HP

取掛西貝塚

国指定史跡



—東京湾東岸部最古の貝塚—



国史跡 取掛西貝塚とは・・・

取掛西貝塚は、千葉県船橋市の飯山満町と米ヶ崎町に所在する遺跡だ。標高約25mの台地の上で東西500mに広がり、約76,000㎡（東京ドームの約1.6倍）の面積をもつ。

これまでの調査で、全国的にみても歴史・文化を知るうえで重要な遺跡であることがわかったことから、取掛西貝塚を将来にわたって保存するため、令和3（2021）年に国史跡に指定された。

このパンフレットでは、取掛西貝塚を知るうえで、主なポイントを紹介していきたい。



赤い▼は、取掛西貝塚で見つかった竪穴住居跡や土器などの主な時期を示している

取掛西貝塚のココがすごい！①

約1万年前の“関東最大級”のムラがあった

取掛西貝塚では、これまで8回の調査が行われ、年表の▼がある時代のムラの跡などが発見されている。

なかでも、縄文時代早期前葉（約1万年前）は、竪穴住居跡が50軒以上も発見されており、そのうち5軒は、食べたあとの貝殻などを捨てた場所＝貝塚としても利用されていた。

約1万年前の貝塚は全国的に見ても少ない。取掛西貝塚は東京湾東岸部最古の貝塚である。また、ムラの規模としては1万年前では関東地方で最大級といえる。さらに1万年前の貝塚とムラの両方があることはとても珍しく、特別な遺跡といえる。



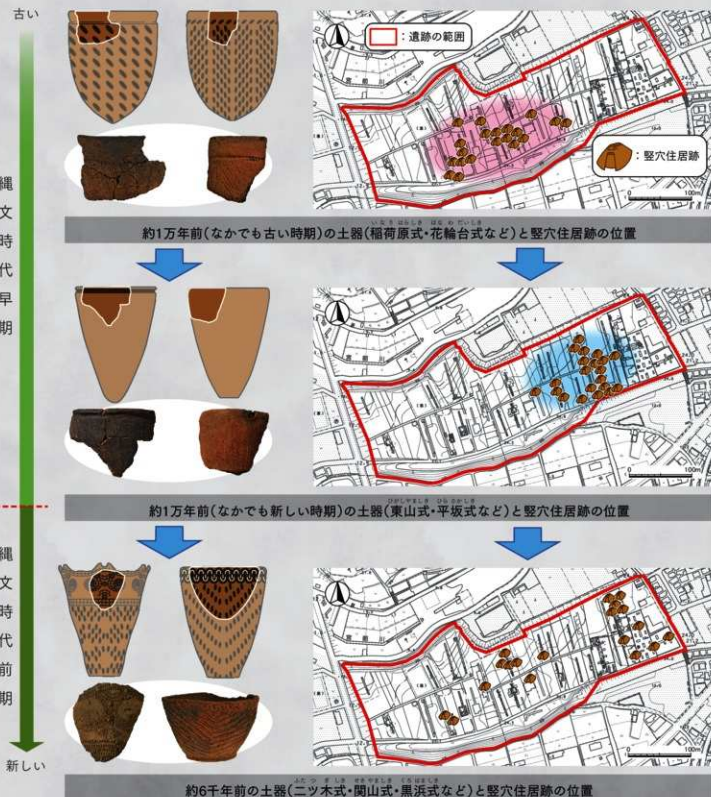
上空からみた取掛西貝塚（東側から撮影）



約1万年前の竪穴住居跡（住居の大きさ・直径6m）

定住生活のはじまり？ 取掛西ムラの移り変わり

考古学では、遺跡で見つかった土器の文様や形の違いによって、時期の違いを見分けている。下の図のとおり、出土した土器を詳しくみると、竪穴住居の広がりをもとに、最初は遺跡の中央部や西寄りに集まっていたが、その後は東の方へ位置を変えている。約1万年前には、氷期が終わって温暖湿潤な気候となり、海面が上昇して現在の日本列島が姿が形づくられた。このグローバルな環境変動に適応して、人々はムラや貝塚をつくり、新しい生活様式を生み出した。取掛西ムラの人々は、住む場所を少しずつ変えながら、ムラの近くで季節的にとれる食料を有効に利用することで、長い間の台地上で「定住生活」を営んでいたのかもしれない。



隠れていた手がかりを発見! 約1万年前の植物利用が みえてきた

土器を観察すると小さな穴のような痕跡がみられる土器片がある。これは土器を作る途中で粘土に入り込んだ植物の種実や虫のあと(圧痕)である。土器を焼いたときに種実や虫は焼けて無くなってしまいが、土器の中に空洞として痕跡が残っている。

発掘調査した竪穴住居跡の床などの土をフルイにかけて洗って得られた。調理などで焼け焦げたとみられる植物の種子・果実(炭化)から、オニグルミ、クリ(コナラ属)、コナラ(シイ属)、エゾエノキ(エノキ属)、キハダ、ミズキ、マタタビ属、ニワトコ、カラスザンショウ、サンショウ、ダイズ、ササゲ属アズキ亜属、シソ属などの植物が利用されたことが分かった。



取掛西貝塚の出土土器
(縄文時代早期・約1万年前)

(1)土器のくぼみをシリコンで型取りして、顕微鏡で観察



(2)CT・X線で縄文土器をスキャン

→ 土器の中から植物の種・実の痕を発見!



1: カラスザンショウ、2: ミズキ



(熊本大学 小畑研究室撮影)

【参考】現代の植物写真



ミズキ



カラスザンショウ



ダイズ属(ツルマメ)



取掛西貝塚の竪穴住居跡
(縄文時代早期・約1万年前)



(1)住居の土を洗ってふるいにかける



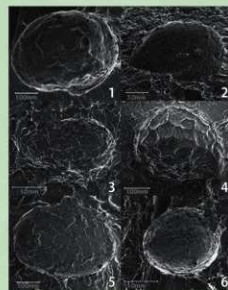
(2)微細な種実を選び分け

見つかった焼けた種・実



1: オニグルミ、2: クリーコナラ属、3: コナラシイ属、4: エゾエノキ、
5: ミズキ、6: カラスザンショウ、7: ササゲ属アズキ亜属

見つかった植物の種・実の痕跡

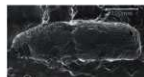


1: ミズキ、2: キハダ、3: ニワトコ、
4: カラスザンショウ、5: ダイズ属、
6: シソ属

植物だけじゃない! シリコンで型取りされた約1万年前の害虫

植物のほかに、コクゾウムシの圧痕も見つかった。現代では、コクゾウムシはコメなどの炭水化物の多い食べ物を食害する虫として知られている。

コクゾウムシが見つかったことから、1万年前の人々が土器作りをしている所の近くにドングリやクリなどの食料が貯蔵されていたと考えられる。



【参考】現代のコクゾウムシ写真

取掛西貝塚で見つかった植物利用を支えた道具たち



スタンプ形石器



三角錐形石器



石皿



磨石



台石

5cm

植物を利用する目的の一つは食べるためと考えられるが、取掛西貝塚には、植物の加工に使われたと考えられている石器もたくさん見つかった。





貝塚の断面を横からみた様子(上)と、その拡大写真(下)

約1万年前の竪穴住居跡のうち数軒は、ぶ厚く積み重なった貝殻で埋め尽くされていた。竪穴住居に人が住まなくなったあとに、そこに食べたあとの貝殻や骨などを捨てた跡で、「貝塚」と呼ばれる。

取掛西貝塚で見つかった、約1万年前の貝塚の中身を丁寧に分けていくと、イノシシやシカのほかにキジやウサギ、タヌキなどの動物の骨が出てきた。魚の骨もあり、クロダイ・ボラ・スズキ・イワシ類・コイ類など、幅広い環境の魚をとっていたようだ。

また、貝塚の中からは、当時使われていた土器や石器などの生活の道具も見つかった。



針(動物の骨針)



ビーズ(ツノガイ製) ↑



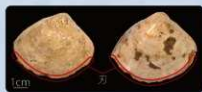
ツノガイ標本(参考)



2cm



装飾品(サメの歯・タカラガイ製)



貝牙(ハマグリ製)

※イラストは想像図



貝塚からは、貝殻や動物・魚の骨(食べ物)と土器や石器(生活の道具)のほかに、動物の骨や貝殻でつくられた道具やアクセサリなども見つかった。

針は毛皮などを縫うためのものと考えられ、現代と同じ形をしている。貝殻のふちに刃をつけた道具(貝刃)は、魚のウロコなどを取るのに使ったと考えられる。アクセサリ(装飾品)は、サメの歯や貝殻に穴を開けたり削ったりしたもので、糸を通してビーズのように身に着けたようだ。

なかでも、ツノガイという貝で作られたビーズは素材を含めると2,000点を超え、日本国内では最多の量を誇る。これは大量のアクセサリが集中する様子を見ると、貝塚のほとんどの役割は、単なるゴミ捨て場にとどまらないのかもしれない。

縄文時代の環境の移り変わりがよくわかる!



縄文時代早期前葉(約1万年前)の貝塚(↑)と出土した貝(→)



縄文時代前期(約6千年前)の貝塚(↑)と出土した貝(→)



取掛西貝塚では、約1万年前・約6千年前それぞれの竪穴住居跡から、貝塚が見つかった。
貝の種類を調べると、約1万年前には河口に棲む貝を主に食べていた人々が、約6千年前には海に棲む貝を主に食べるようになったことがわかった。
いったいなぜ、違う種類の貝を食べるようになったのか。また、その違いは、何を示しているのだろうか。



約1万年前と約6千年前、どちらも海岸線の位置が現在とはかなり異なっていたようだ。約1万年前には海面が今よりも約40m低く、取掛西貝塚からは海が遠かったとみられる。
しかしその後、急激な温暖化により海面が上昇し(これを「縄文海進」と呼んでいる)、約6千年前には現在よりも2~3m高くなり、取掛西貝塚の近くまで海がきていたようだ。
約1万年前は、縄文時代としては貝塚がつくられ始めた頃にあたる。貝塚に捨てられた貝殻は、当時の環境を知る重要な手がかりだが、当時の貝塚は全国的にみてもとても少ない。取掛西貝塚は、それらの貝塚の中で東京湾東岸部では最古の貝塚である。
取掛西貝塚で見つかった貝の種類の違いからは、海面が現在よりも低かった頃、海面が現在よりも高くなっていた頃、それぞれの環境の違いをうかがうことができる。